

移転後を見据えて

大学が消える街

箱崎は今

「ここは大学時代の思い出が詰まっています。今まで本当にお世話になりました」。九州大学近くの料理店「あと山」（福岡市東区箱崎）を訪れた同大学ラグ

ビール部OBの福島吉孝さん(三三)は、おかみの後山豊子さん(ハニ)らに深々と頭を下げた。「あと山」の閉店が月末に迫った昨年五月半ばのことだ。

月末に迫った昨年五月半ば
らしの寂しさが紛れた」と
のことだ。

閉店

懐が寂しい九大生にとつては安さが大きな魅力だつた。「これだけしか払えなけれど、食べさせてください」。後山さんはコンバの幹事学生に泣きつかれて、予算に応じた献立を融通した。すき焼きが無理な苦学生には水炊きを振る舞つた。

若者たちは大広間の舞台でさまざまな宴会芸を披露した。仲居さんも三味線を手に一緒になつて盛り上げ

焼き肉食べ放題やお代わり自由のカレーライスを求め、食べ盛りの若者が昼夜を問わず出入りした。九〇年代が懐かしさに店に立ち寄ると、同窓生だらけだつたという逸話も残る。

だが、時代は確実に流れる。学生の好みが下宿からワンルームマンションへ、宴会からカラオケボックスへと変わるために「あと山」の存在感は徐々に薄れていった。追い打ちをか

九四二六 一九六〇年六月六日

大食漢どもが夢の跡

戦後復興のさなか、「あ
と山」は牛舎や生鮮市場が
並ぶ通りに料理店と、現在
も営業を続ける精肉店を開
業した。当時は珍しかった
すき焼きが、すぐに入気を
集める。

後山さんは、にぎわった日々を振り返る。

けたのが九大の移
て、時間を感じず
話に花を咲かせられ
また開きたい」と二
かみの後山洋子さん
「あと山」の閉店を
張り紙の余白に、誰
たこの街で再開して
い」と書き込んでい

およそ一世紀前に九州大学が創設され、数多くの学生たちとともに歴史を刻んできた福岡市東区の箱崎地区。二〇〇五年度からキヤンバス移転が本格化し、人の流れが大きく変わりつゝを告げた。別れを惜しみながらかが「またある。別れを惜しみながらさくださも、移転後を見据えて動き始めた箱崎の街を描く。



「またゆっくりと思い出話のでき語る二代目おかみの後山洋子さん

「お店をつくりたい」と